

節電は、地球にも 懐(ふところ)にもやさしい

シリーズ

家庭でできる温暖化防止⑥

今月も節電するからできる
CO₂削減について考えてみました。

取り組み1 電子レンジを上手に使う。

煮込み料理の野菜は、電子レンジで温めてからなべに入れると、煮崩れも少なくガスも節約できます(電気代はかかりますが、差し引きでお得になります)。また、ご飯が残った場合などもジャーで長時間保温するよりも、食べるときに電子レンジで加熱した方が電気の使用量が少なくになります。

100gの食材(カボチャ、ブロッコリー)を1ℓの水(27度)を沸騰させ、煮るケースと同等の食材を電子レンジで下ごしらえした場合の比較をすると、電子レンジで下ごしらえする方が、年間約14kgのCO₂削減、金額にして年間約1,000円の節約になります。



取り組み2 テレビの利用時間を減らす。

時計代わりなど、見てはいないけれどもなんとなくスイッチを入れておくようなことをしていませんか。テレビ番組を厳選し、テレビを見る時間を減らします。

テレビ(28型)を見る時間を1日1時間減らした場合、約15kgのCO₂削減、金額にして年間約1,000円の節約になります。涼しい季節になりました、テレビを消して家族で読書をするのも良いのでは！



●このコーナーは、環境課が担当します。内線304

考えよう。共生時代③

シリーズ

働くブラジル人、求める日本(下)

Bom Dia

前回のコラムで「ブラジル人が日本に働きに来る一番の理由は、ブラジルより日本の給与の方が高い」と話しましたが、実は、日本がその労働力を求めているということは日本人の間ではあまり知られていないかもしれません。

20年程前からブラジルに住む日系人が日本に来て働く(デカセギ)流れが始まりました。それは日本の製造業や関連企業などが多くの労働力を求めていたからです。1989年にたった2人だった市内のブラジル人口は2005年9月1日現在3,306人(外国人人口の約70%)にまでふくれあがりました。全国の外国人人口においては韓国・朝鮮、中国に続く多さになっています。

こういった日系人急増に大きく拍車をかけたのが1990年の入管法改正です。それまで製造業などの生産ラインで働く(単純労働)目的で入国することは、認められていませんでした。しかし、この改正により、日系人(過去に日本から海外へ移住した者の子孫に発給されるビザに限っては、単純労働もできる)ようになり、その結果、市内の工場でも多くの日系人が働くようになりました。

法律を改正してまで、労働力を補った日本、しかし急激な地域の国際化に対して市民レベルでの受け入れ体制がまだ十分整っていないとは言えない気がします。

少子高齢化が進む日本社会では今後外国人労働者が増加すると思われます。働くブラジル人、労働力を求める日本側も、互いにそれぞれの事情を理解しながら「共生」していく必要があると思います。